



クレープシズネ

PC
スタンド



フェンダーのギター



SHUSEI MATSUI



読書



スニーカー

AGE

24

6つのこと

松井周星さんの

今号の表紙
福祉楽団
コーポレート統括部 人事部（採用担当）

見 楽 ツ ア ー

学生さんとの面談はオンラインが中心ですが、モニター越しの見栄えも大事だなと思ってPCスタンドを買いました。パソコンの角度や高さを調整して、背景や自分をバランスよく配置すると、それだけで印象がちょっとよくなる(笑)。法人全体の窓口を担うのでいつも緊張します。各拠点を案内する「見楽ツアー」はすごく楽しいですね。学生さんと直接会えるし、自分たちの理念をリアルに伝えるには、人や風景、デザイン、建築も含めて、ケアの現場にふれてもらうのが一番なので。部署の先輩が薦めてくれた『採用学』は、採用も介護と同様、科学的に実践できるとわかって勉強になりました。ビジネス系の本はウソっぽい気がして最初は敬遠してたけど(笑)。それでも読書には関心があって、いろいろな本を読みます。大学時代には社会思想という学問に出会い、先人の言葉や文章を頼りに考えることのおもしろさを学びました。

最近、オフィスのある幕張に引っ越してきました。休日は近所の「クレープシズネ」に行きます。竹炭を生地に使った黒いクレープのお店で、甘いバナナチョコがお気に入りメニュー。晴れた日は「幕張の浜」に座って、本を読んだり、音楽を聴いたり、ぼーっとしたり……ひとりでんびり過ごします。海辺の散歩用にスニーカーも新調しました。緑色のモノが好きで、Tシャツやハンカチも緑が多めです。フェンダーのギターは、母が昔、父にプレゼントしたもので、それを受け継いで中学の頃からずっと愛用しています。でも、演奏を人に見られるのが恥ずかしくて……ギターが好きなおことは友だちにも言っていないんです(笑)。ときどきこっそりスタジオに行って、ただひたすらに自分のためだけに弾いています。



**「やってよかったことしかない」
考えて行動する。駆け抜けた18年**



林有子さん（47歳）は「杜の家くりもと」の看護師として働きながら、統括ユニットリーダーとして職員の育成や施設の課題解決にも携わっている。

看護学校を卒業後の4年間は病院で看護師を務めたが、バックパッカーに憧れて25歳で世界一周の船旅に参加した。その後、治験コーディネーターをするも、もう一度看護師として働きたいと福祉楽団へ入職し、今年で18年目になる。

病院では、もうすぐ命が尽きそうな患者への輸血のために走り回っていた。治験コーディネーターの時代は、書類をただ待っている時間が長かった。それらの経験があったからこそ、「その時間があるなら手を握り、傍にいてあげたい」「身体を拭いてあげたい」と考えるようになったと語る。今では介護職員と一緒にケアに取り組んだり自然な看取りができたたりすることを、やりがいに感じている。しかし、今のこの体制も入職当初は整っておらず、その基盤づくりから奔走してきた。18年で大変なことはたくさんあったが、「やってよかったことしかない」と、さらりと話す姿にバイタリティを感じた。

仕事ではその場の雰囲気や感情に流されず、本質を見極められるよう“考えて行動する”こと、立場によって態度を変えずに“自分の意見を伝える”ことの2つを大切にしている。「今の行動がすべて自分に返ってくる。その場その場で、できる限りのことをする」と、まっすぐな瞳で教えてくれた。

今は子どもが小さいため、仕事と家庭の両立をがんばりたい。疲れて動けなくなるときもあるが、両立のためにどう工夫できるのかを考えるのも好き。出勤前に洗濯物を畳みながらバラエティを1本見るのがひそかな楽しみだ。

林さんが毎日を全力で駆け抜けているように見えるのは、すべての経験が未来につながることを知っているからだ気づいた。私たちもその姿を追い続けたい。

text : 杜の家くりもと
角田 陽心

**いつか一緒にライブに行きたい！
大谷まどかさんご家族インタビュー**



「障害のある人って、給料が少ないじゃないですか。でも、ここでは給料を上げようとしてるって聞いて」。そう話してくれたのは大谷まどかさん（25歳）のお母様。まどかさんは2021年1月から「恋する豚研究所」の食堂で、就労継続支援A型の職員として働いている。

もともと、まどかさんは千葉県内の別の施設で就労継続支援B型を利用していた。作業の対価は「工賃」で少なかったため、お母様がまどかさんの将来を思い、A型に入職した。A型では最低賃金が保証される代わりに仕事で求められることも多く、当初は苦勞もしたそう。「恋する豚研究所」では、店長の香取沙也加さんや支援員の小泉博さんなどと話し合いながら、個別支援計画を立てている。手先が器用で着実に仕事をこなすなどの持ち味を活かしながら、自信が弱く弱気なところを乗り越えられるように目標を立てた。身だしなみを整えることや元氣な挨拶、自分の意見を表現できるように支援している。今では食堂になくてもならない働き手になり、新しい業務も積極的に覚えるなど、顔つきにも自信がうかがえるようになってきた。

親子の仲はよく、仕事の苦勞も家庭で話せる。そして二人揃って「なにわ男子」のファン。今では働いたお金でグッズを買い、いつか一緒にライブに行けるのを楽しみにしている。将来の夢を聞くと、お母様からは「ゆくゆくは障害の枠から外れて、社員になれば。私がいなくなっても困らないように」。

誰もが当たり前のように働いて、当たり前で生きられるように。まどかさんのこれからを支援していきたい。



「なにわ男子」のグッズはほかにうちわなどたくさんあった

text : 栗源事業部
植村 航



6つの社会福祉法人と合同で 「DrawUp! 研修」を開催しました

福祉楽団では、「よいサービスは、よい人材から生まれる」の考えのもと、教育研修による人材育成に力を入れています。学ぶ機会を保障し、職員の持てる力を活用して高めれば、ケアの実践力が高まると考えているからです。

研修計画は年度ごとに定めていて、そのうちの1つに「DrawUp! 研修」があります。この研修は次世代のリーダーを育成することを目的に、2015年から毎年、他の社会福祉法人と合同で開催してきましたが、2019年～2021年はコロナの影響で中止となり、今回は4年ぶりの開催となりました。

全2回の1回目は、千葉市内のホテルにて7月11日～12日の1泊2日で開催し、6つの社会福祉法人から18名が参加しました。他法人の職員とのディスカッションなどを通じて悩みや経験を共有し、自法人における強みや課題などを考えました。参加者からは「相互レビューでは、



自分や法人の持ち味をポジティブにとらえることができ、(リーダーとしての)仕事の意味を考えることができた」などの感想が聞かれました。

今後は、お互いの職場を相互訪問して他法人の取り組みを知り、10月に開催予定の2回目でその振り返りと自身のアクションプランを考えます。

他法人との交流で視野を広げ、新しい取り組みや気づきを得ることにより、参加者がリーダーとしての自信をつけ、成長し続けることを期待しています。



text:
コーポレート統括部
山下 貴史

参加法人事務局の声



金山 豊さん
社会福祉法人合掌苑

この研修に参加した職員は、主体性が出てモチベーションが向上しているように感じます。今は事務局を担う私自身も、「DrawUp! 研修」初回の受講者でした。他法人を知ることで自法人に自信を持てるようになった

し、法人を越えてネットワークをつくることができました。受講者には、自分たちがやっているケアがベストではなくいろいろな考え方があることに気づき、自由にチャレンジするためのきっかけにしていきたいですね。

「DrawUp! 研修」参加法人 (50音順)

- 社会福祉法人愛川舜寿会 (神奈川県)
- 社会福祉法人小田原福祉会 (神奈川県)
- 社会福祉法人合掌苑 (東京都)
- 社会福祉法人しんまち元気村 (群馬県)
- 社会福祉法人生活クラブ (千葉県)
- 社会福祉法人福祉楽団 (千葉県)

REPORT



当事者から学ぶ、 社会的養護のリアル

7月26日に『児童虐待と社会的養護』のテーマで研修を開催しました。この日は、児童養護施設で育った当事者としての経験から



「子どもの福祉には、職員への支援が必要」と考え、大学生でありながら起業している吉住海斗さんの講演でした。施設退所後の生活は大変で、「温かい味噌汁を飲みたい」と職員に頼った話などをしてくれました。参加者からは「当事者のリアルな声を聞いて視野が広がった」などの感想が出ていました。これからもさまざまな当事者の声に学び、必要な「居場所」をつくっていきたくと決意を新たにしました。



text:
香取 CCC
藤堂 智典

ACTION



「杜の家やしお」で『だれでも食堂』 たくさん子どもでにぎわいました

「杜の家やしお」では、毎月5の付く日の「ごはんの日」や子どもの「無料学習塾」などを開催してきましたが、新型コロナウイルスの影響で開催を自粛しており、地域のひととの時間や空間を共有する機会が減っていました。「何か新しい取り組みをしたい!」と、複数の若手職員を中心に意見があがり、誰もが気軽にごはんを食べに来られる『だれでも食堂』を開催することになりました。初回は8月28日に縁日の出店をイメージして開催し、参加者と職員の双方から好評でした。今後は定期的に開催し、ゆくゆくはコロナ前の活動とリンクさせて、これまで以上に地域に開かれた施設を目指していきます。



text:
杜の家やしお
石岡 太郎

COVER STORY

福祉楽団 コーポレート統括部

松井周星さん



旅行が好きで、写真は大学時代にスペインのアンダルシア地方を訪れた時のもの。ギターが弾けることは初公開だし、寝食を忘れてタンゴに没頭していたという時期があるというから驚きです。噛めば噛むほど味の出るような人柄なので、多くの人にその魅力が伝わると嬉しいです。



text:
コーポレート統括部
原田貴征

VOICE

ご利用者やご家族などからハガキやメールなどで寄せられた「声」に対して、職員がお答えします。

ご意見

〔杜の家なりた／保育所〕

朝に泣いている子どもを預けたが、外から確認すると職員は子どもを一人にして離れていた。泣いていたら面倒を見ないのか。

お答えします



西山 啓介

杜の家なりた
地域福祉サービス部 部長

対応が至らず、不安な思いをさせてしまい申し訳ありません。ほかの児童の対応をしていたため、すぐにかかわることができませんでした。今後は、ほかの職員を呼び、迅速に対応できるように改善いたします。

ご意見

〔福祉楽団 地域ケアよしかわ／訪問介護〕

一人暮らしですが、週に1回来ていただき、部屋の片付けをしてもらい助かっています。今後もよろしく願います。

お答えします



大場 悠平

福祉楽団 地域ケアよしかわ
訪問介護チーム サービス提供責任者

一緒にお掃除をしながら、奥様との思い出や以前されていたお仕事の話を伺い、私どももうれしく感じています。精一杯お力になりたいと思っておりますので、これからもよろしく願います。

※掲載しているご意見の内容は個人情報の保護の観点から編集をしています。

TOPICS

01 森林政策の勉強会を開催しました

去る7月5日16時から約2時間、千葉県香取市の「栗源市民センター」において「香取市の森林をどう管理しどう保全していくか」と題する勉強会を開催しました（香取市持続可能な森づくり協議会との共催です）。講師には九州大学の佐藤宣子教授（森林政策学）をお招きし、森林環境譲与税の仕組みや、都市に近い香取市の森林活用の可能性を学びました。レクリエーションや文化活動の場所として森の活用が期待されます。会場には約30名の聴講者が訪れ盛況でした。

02 「杜の家なりた」(成田市)で訪問介護がはじまりました

2022年8月1日から「訪問介護ステーション杜の家なりた」を開設しました。サービス提供地域は千葉県成田市、富里市、酒々井町、栄町、印西市、佐倉市の全域です。「通い」や「泊まり」も含めて、総合的なサービス提供が可能になります。お気軽にご相談ください。（電話：0476-20-7575）

03 「杜の家くりもと」(香取市)の大規模修繕を行います

2022年10月～2023年3月の間に、建物の外壁塗装、屋上の防水工事、テラスの改修、内装工事を実施します。工事期間中は、一時的な居室の移動などご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

04 「杜の家くりもと」(香取市)で業務用洗濯・乾燥機の入れ替えを行いました

2022年度中央競馬馬主社会福祉財団の助成を受けて、業務用洗濯・乾燥機の入れ替えを行いました。事業費は313万円で、うち160万円の助成を受けています。故障も多くなってきていて困っておりましたところ、たいへん助かりました。